

課題番号 8

基本方針：Ⅱ	課題名：大規模化に対応した柿産地づくり	
対象：JAならけん五條柿部会（138名）	計画期間：R 6～8	
JAならけん西吉野柿部会（240名）	事務所名：南部農林振興事務所	
普及指導事項	活動内容	活動成果（計画当初→R 7年度末）
<ul style="list-style-type: none"> ・「上平早生」への転換誘導 ・密植による初期収量の確保 ・老木園の改植啓発 ・炭そ病、フジコナカイガラムシ等の防除技術の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 講習会・班長会等 現地研修会 実証圃設置 巡回指導 収量調査 講習会・班長会等 現地研修会 巡回指導 講習会 情報提供 	<p>【品種・樹齢構成の適正化】</p> <p>導入面積（上平早生） 31.7ha → 36.4ha</p> <p>老木園の面積（富有） 44.6ha → 43.2ha</p> <p>【主要病害虫の被害低減による高品質・安定生産の推進】</p> <p>選果場の秀品率</p> <p>刀根早生 52% → 64%</p> <p>富有 57% → 53%</p>

総合評価（コメント）

A：5名 B：1名

- 果樹は時間が必要な作目であり、長期的展望を持ちながら品種選択をすることが求められる。生産者の経営状況なども考慮し、生産の適正化、品種導入に努めていただきたい。
- 「五條の柿」ブランドを守っていくために、新品種の導入や更なる高品質の柿の安定生産に向けて努力していただきたい。
- 大規模経営を行ううえで、収穫作業の平準化を図ることは重要な要素。新たな病害虫の防除への対応が必要となってきており、対策が打たれている。
- 労力の分散は農家にとって大切な事です。高温対策や販路についても注視が必要かと思います。
- 大規模化に対応した柿産地づくりは着実に成果をあげている。今後も、残された課題の解決に向けて活動を継続してほしい。
- 全国屈指の産地であるだけに戦略や戦術が明確で、また具体性がありわかりやすく必要なことをキチンと行っているように感じました。油断せず今後も産地競争力を高めていってほしいと思います。

普及指導計画への反映状況等

- 来年度普及指導計画において、生産の適正化のため、老木園の改植推進の改善と日焼けによる品質低下対策について、情報収集、対策検討を位置づけ実施する。
- また、既存の対策についても計画への位置づけを継続し大規模化に対応した柿産地づくりを推進する。